

い。」と云われ、サツカリンの使用法すら知らなかつた有様、分量はおろか加えすぎたらどうなるかなど全くの無知、冷汗物である。「標準葛湯を知っていますか？」突差に分量が答えられない。一事が万事、この調子であるから、勉強不足と云われても仕様がなない。病院実習をやるからには、その下調べと準備はやるべきだつたのである。こういう調子で、私には、実習期間中の毎日が自分の勉強不足の再確認の連続であつた。常々「やらねば…」と気にはして居ながら今まで安閑としていた自分が歯痒いやら、残念やら。仲々、思う様にならないけれども「学生時代の聴は聴でない。今の内に知らないことはどんどん質問して、一つでも多く、新しい知識を、得ておきなさい」という先生の御言葉を胸に刻みつけて、「何事に於ても知らなすぎる、もつと勉強をせねば…」との意欲を得たことがなによりも増した、大きな、此度の実習の収穫であつた。この気持をいつまでも持ち続けたいのであるが……。

工場見学記

次の工場見学記は短食2回生1組及び2組が食品関連工場を見学した時の感想記ないし印象記的なもので、各工場に於ける製品の製法を説明するものではない。

同じ工場を見学しても人により見方、感じ方は種々様々である。見学記を読んで見ても小学生的（失礼）なのから、さすがは短食の学生だと思われるものまでいろいろある。後者に属するのが比較的少ないのは残念である。

指導の仕方が悪いのかも知れないと反省もしてみるが、そればかりとはいいい切れぬようである。

いろんな見方、感じ方のものを集めて見ようと考えたが思うにまかせなかつた。この点御了承願いたい。

なお1組の3工場は38年9月30日、2組の2工場は38年12月3日に実施したものである。

岡部記